

七、水と生活

飲み水の確保

一、天然の湧き水や沢の水を求めて住みついた

尾関原（宮野中宅）の屋号の示すように、近くに堰（むかしは関とも書いたらしい）があり、その水源となる湧き水が寺山の裾にあつて、そこへ行く道を井戸道とも言っている。また、いまのせんべい屋（本吉ぶん宅）は旧家で、むかしは奥笹にあつて屋号を谷といふ山から出る水と谷の沢（地名）の水を使つたらしい。甲坂の近くに甲沢があつた記録もあり、近くに清水場もある。このようなところが、ほかにかなりあつて、みんな古くから住みついたと思われる旧家がある。

二、掘り井戸や樋で呼び水をした

住みつく家が多くなると、遠くから水を運ぶのがたいへんなので、近くに水の層があるだろうと考えて井戸を掘るようになり、ほとんどの家庭で井戸水を使う

ようになった。浅い井戸は、かんたんつるべ（竹竿の先にバケツを結びつけたもの）を使い、少し深い井戸はテコを応用したはねつるべを使い、かなり深い井戸は滑車を応用した車井戸が使われた。なかには井戸に恵まれず隣りからのもらい水もあり、山の根に住む家では、しぼれ水（山からの湧き水）を竹樋で炊事場までひいたチャッカリ組も何軒があつたが、炊事や風呂に使う水はかなりの量であるので水汲みもたいへんであつた。水汲みは、たいいてい子どもや女の仕事であつて、子どもは、学校から帰つて水がめにマンタン、さらに風呂の水を汲まなければ遊びに出られない。時には、遊びが優先して忘れてしまい、夕方親に叱られる一幕もあつた。

三、ポンプの時代

水汲みの能率を考へて昭和十年代から手押しポンプを使う家がポツポツあらわれた。しかし最初は調子がいいが古くなるとパッキンもかたくなり、しかも縮んでしまつて吸い上げ能力がなくなり、水を出すまでに

は、つるべで水を汲んでポンプに入れて呼び水をして何回も把手を動かすなど苦勞したこともある。昭和三十年頃になって電動ポンプが出まわりたいへん便利になった。しかし、最近のように隣りが買ったから家でも買うという伝染病的な考えを持つことなく堅実型の家庭が多かったので、つるべ井戸もかなり使われた。

四、簡易水道加入

便利さと衛生面から、昭和三十八年に坂畑地先の地下水を水源とする簡易水道が敷設され家庭用水に一大革命が起きた。ほとんどの家庭が加入し、いまでは、飲料水はいうまでもなく、電気洗濯機、温水器による風呂、炊事場への給湯等の普及も目覚しく、日常生活にうるおいをもたらしてくれていることはありがたいことである。

水車の思い出

いまは、亀山ダムの湖底になってしまったが、山神社の下に米搗き用の水車があった。村の人は車屋と呼んだ。神社から四〇〇メートル位のかなり急な坂道（通称車屋の坂）を降りきった笹川の支流のすぐそばに、明治三十三年十月二十三日に約五メートル位の落差を利用し、四つの臼を取り付けた水車が動きはじめた。修繕の時以外は年中無休で終戦直後までまわり続けた。遠い家は約二

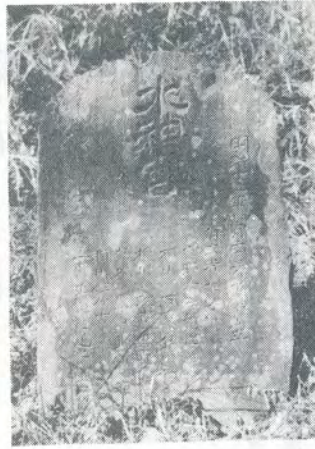
キロメートルもあるところを背負はしごで米を搗きにきたのだから家の臼で搗くより、はるかに能率的であったことがうかがえる。

大きな水車も回転軸も軸受けもすべて木製で、ときには軸受けに種油をやってまわりをよくした。水の量が少なかったり、油ぎれでもしようものなら、キーバツタンバツタンと大きな音をたてて道往く人を驚かせたり、また、なつかしさを与えてくれた。一株の家は一日中、半株の家は半日使うことができ、子どもの頃は母親に連れられて箕やおしを持って水車小屋へ行ったものである。ときには、夕飯を食べてからカンテラをさげて、うす暗い夜道と一緒にいったこともある。一日に二俵くらいしか搗けなかったが、途中で糠取りをするくらいであとは家でほかの仕事ができたのでたいへん便利であった。

杵の落ちるところへ杵のすっぽりはいるくらいのわらでつくった輪をいくつか重ねて搗けのいいように仕掛けてあったことや、水車の力をうまく利用できるように四つの杵が順に落ちるように工夫されてあったことなど、子どもの頃であったが感心させられた。

わずかな期間であったが三番組が中心になって棒谷に小型の水車をつくったこともある。

水神宮の碑（ダムができたためこの碑だけは山神社の境内に移された）



水利組合の変遷

① 笹・豊田水利組合沿革

（亀山村誌より）

○笹、豊田水利組合は明治三十二年六月組織せるものにして総反別十七町五反歩（二十五町歩）の水利なりしも大正三年六月組合を解散し現在は私設組合法に依り組織しその大綱は公設のものに準ぜり。

笹、豊田水利の起源は文久二年八月にして小櫃川の支流なる笹川の上流字清水より水路を開さくせしものなり。当時徳川幕府の末世にして松平大和守の御領地なりしが郷民哀願して所謂御用工事となし開墾せられしは笹村に

て最高四百貳拾石二斗八升六合此の反別四十五町四反一步野中村にて取高八六石七斗一升四合此の反別九町貳反四畝二歩菅間田村にて取高四十六石九升二合反別四町七反一畝の見積りなりしが竣工の暁に至り奥山の蕪らたりし老樹を伐採するに至り水源に不足を生じ年々歳々給水の量充分なりざりし為一度成田なりし地も年々追い陸田と変ずるの止むなきに至りしなり之が工事の主唱者たりしは名主宮野庄左衛門組頭松山鶴岡鴨衛門百姓惣代鈴木判右衛門等にして専心土地の開拓に役事し日夜吸々事にあたりし時の出張陣屋元佐藤徳兵衛、山川千兵衛、渡辺五郎兵衛、秦多津右衛門、代官鈴木金太夫、普請掛伊藤猪之助、本吉治右衛門、宮野助左衛門等地方開発のため身を徹して工事を監督勵行せらる。請負人現在松丘村利根宮野松造全村宇坪古宿星野由右衛門なりき水路総間數參千四百五十八間九寸工事費壹千拾四兩五分三朱銀三匁六分一厘四毛なりき。

水路中殊に椿より踊沢に至る鉄砲穴參百貳拾七間の如きに至りては途中空気の流通なきため穴に「タタラ」仕掛により空気を送りたりと、かゝる苦心經營三年にして漸く成工せしものなり。

笹豊田水利組合の沿革

文久二年八月

笹豊田畑田成

明治三十二年六月 笹豊田水利組合
 大正十三年七月 笹豊田耕地整理組合
 昭和二十八年四月 笹豊田土地改良区
 昭和四十四年四月 豊田組合員全員脱退
 昭和四十八年四月 笹水利組合「五十七年現在」
 文久二年より数えて昭和五十六年は百弍拾年記念である。

歴代理事長 年数

大正十三年 相川佐代吉 一〇年
 昭和九年 宮野與左エ門 一八年
 " 二十六年 座間勝之助 二年
 " 二十八年 座間平太郎 二年
 " 三十年 相川彝彦 四年
 " 三十四年 野村平藏 一八年
 " 五十二年 相川由美 一八年
 大正十三年以前の記録は不明である。

② 笹・豊田耕地整理組合

○笹字長見所（通称セキ谷）溜池工事は既設用水にて常に水不足を来して居り組合員一同の要望協議に依り溜池を施設する事を決議する、大正十三年度。組合長相川佐代吉氏副組合長座間勝之助、宮野隆一氏である。

構造盛土堤。長さ二十五米。水深九米。水量一五〇、

〇〇〇石である。県費補助金三千〇八十四円
 総工事費は壹万百参拾八円〇七銭。当時土方一人当弍円〇銭。土方請負者五十石岩吉氏であった。

○第二期工事として通称踊沢溜池堤塘工事に着工。国有林敷地を借用。昭和十三年一〇月当時組合長宮野與左衛門、副組合長座間勝之助、宮野茂左衛門。工事費三千六百円の見積にて着工。完成は昭和十四年三月である。当時の人夫賃一日八拾銭であった。工事中豪雨の為提防流出に依り被害相当ありたりしが、その記録は詳でない。当時組合員八拾六名、工事請負者は唐鎌定治氏、総工事は組合直営工事の様であったが一部請負である。現在国有林借地代は拾弍万円年間支払っている。工事に対する県補助金弍千円であった。

○昭和四十四年四月組合員豊田部落全員維持管理に対する人夫の供給不能の時代と成り組合を脱退する旨の申出あり、之を認める。反別は七町三反歩である。現在は小櫃川より揚水施設を致し電力揚水機である。
 ○反別縮少に依り土地改良区を解散して笹水利組合と改称。

契 約 證

龜山村笹豊田耕地整理組合八字踊沢本流二溜池新

設ノ工事請負ニ付合議上本組合代表者組合長宮野與左衛門ヲ甲トシ工事請負人唐鎌定治ヲ乙トシ左之條項ヲ契約ス

契約之事項

一、工事請負人乙ハ設計書並ニ図面仕様書ノ通りトシ縣耕地課及本組合ノ指揮ニ從フモノトス

二、乙ハ工事着手ヲ昭和拾參年參月式日ヨリ工事完了ハ全年四月式拾日迄トス

三、工事全部ノ請負ハ金參千円トス

内金渡シハ參回トシ工事ノ工程見積リノハ割ト定ム

請負金ノ金額渡シハ工事完了後耕地課ニ於テ検査済ノ上支払フモノトス

但シ人夫賃金ノ支払ニ付テハ拾日毎ニ支払金ヲ交付ス

四、本組合ヨリ工事委員ヲ現場ニ出張サセ人夫督励ヨリ工事監督ニ当ラシムルニ付乙ハ總テ合議協調スルモノトス

五、本契約事項ハ相互ニ之レヲ確守致可ニ付本証式通ヲ作製シ各宅通宛ヲ保有ス

右契約證依テ如件

昭和拾參年參月壹日

龜山村笹豊田耕地整理組合代表者

以下余白

全所四百參拾七番地
甲 契約人 宮野與左衛門
乙 契約人 唐鎌 定治

③ 笹水利組合

總反別拾貳町步余である。

昭和四十五年七月一日房総半島南部に襲來した集中豪雨の為用水路全線に亘って土砂流入決壊懸樋等の落下。

水路は完全に寸断され一滴の水も使用不可能となり組合員六十四名の昼夜を問わず復旧に当り、約一ヶ月の日時を費して応急処置の結果、早害を喰い止めることができた。

初年度応急処置の為、次年度に於て補強工事を行いようやく完成を見たのである。補助金と一部組合負担による。踊沢溜池に於ては上流国有林より土砂崩土により椈植林地が流入して溜池内は一大貯木場と化して整理には大人夫を消費した。池底には今だ完全に除去出来なかつた残木切株等が昔日を偲ばせている。復旧作業に要した人夫は一、五〇〇人以上である。第一期工事が四十五年七月〜八月四日まで。第二期工事が四十六年二月〜三

月二十日まで。当時人夫賃金一人当式千円であった。用水路の延長は七、二五〇米である。総工事費は三百五十一万六千円の見積が県土地改良課の算出した数字であった。当時組合長野村平藏氏。

資料

(中台家宮野茂左エ門氏の資料に依ル)

「タタラ」は木更津辺の矢那村と云う所に大仕掛の鋳物屋有之と聞き時に当村大工定兵衛「奥笹下」世話人中台幸右衛門全所に行き実地見聞の上帰宅して施行有効なりと云う、タタラの家は大野五郎右エ門云鎌倉大佛の作者なりと云う。

一番難工事とされた鉄砲穴の作業等出役人夫の間にうたわれた数え歌。一ツトセぶし 作詞笹中台家幸右エ門

- 一、一番長い穴椿穴下にや長見所でタタラふむ
- 二、二番長い谷の沢此の穴首尾よく掘レマスル
- 三、三番長い房各ツ穴で下には盛場でおニギヤカ
- 四、夜昼掘ルノが踊沢タタラを踏マナキヤ掘レヤセヌ
- 五、いつも長穴掘リマスが燈火を付カナイ下ハナイ
- 六、昔古人のたとへにも長穴掘ルナト人が云ふ
- 七、泣き泣き掘ルノが踊沢夜昼掘ルトモ抜ケヤセヌ
- 八、ヤタラに掘ルノが窓穴で何も心配アリヤセヌ

- 九、コクウに掘ルノが窓穴で歌やハヤシで大サワギ
- 十、トカク長穴掘リマスが此の様な長穴アリヤセヌ
- 十一、十一日は倉開キ早く長穴開キタヤ
- 十二、十二ノ神楽舞上ゲテ早く長穴抜ケル様ト
- 十三、十三サヒロノ長穴モタタラヲフンデ抜ケマスル
- 十四、シマツに困ル長穴モイツシカ抜ケズニイヤシナイ
- 十五、十五夜オ月様夜ニおきる踊沢の長穴手ニアマル
- 十六、ロクヲイタダクアリガタサお上のほうびかくれし

だい

十七、賃を負はずと米ヲ賣シ長穴入用リコワクない

十八、初メテ此様な長穴掘リマスが、オツ付ヌケルデア

リマセウ

十九、クロニシャンズナ長穴モ程ナク抜ケルデアリマセ

ウ

二〇、ニツカニ長穴抜ケマシテお上モ百姓モおヨロコビ

大正十三年通称セキ谷溜池工事ノ人足労働歌

一、人モヨリ知ルセキ谷に四十余尺ヲ積上ゲル

コノセキ普請コリヤ

二、フイノ震災其ノ為ニ水の不足トナリマシタ 全

三、皆一同が呼び合セ朝ノ五時カラセキ谷ニ 全

四、夜昼苦勞ノタヘマナキ耕地整理ノお役人 全

五、イツ来テ見テモコノ工事トロノヒビキノニギヤカサ 全

六、昔文久二年ニ始リマシタ畑田成 全
 七、長ノ年月タツ中ニ水ノ不足デセキドメヲ 全
 八、ヤガテミノレル秋ノ田ニ穂波重ナル嬉シサヨ 全
 九、コレモ身ノ為村ノタメ国威富マスル基ナリ 全
 十、トウトウ日夜ノ丹精デ積ンデ数ヘル米俵

作詞 宮野茂左エ門

新田開発

□万治年中之事成シニ木越之辺ノ山ニ猪鹿狩シテ帰シニ此山狭之様ヲ考ルニ岩高ク峻ケレ共僅シテ山之中狭シ方便ヲ以テ此山ヲ堀切水ヲ傍ラ成ル下面沢之流ニ遺テ今此河ヲ新田ニ為ハヤト思付ケリ然ル程ニ○御地頭土屋民部少輔様之久留里城御役所へ罷出右企之趣ヲ訴ヘ人夫ヲ願申上ル時委ク様子ヲ被一聞台一亀山ニ開発之地診シク思召テ○テ普請奉行ヲ仰付彼木越山ヲ峠ヨリ俄ニ人夫百人ヲ以テ掘山穿岩事十余日間也然レ共彼山万分一モ不堀也

~~~~~ 記録紛失 ~~~~~

穴之水遷ヨリ乾ヘ流レ出テ又西ヨリ躍澤之水合セリ之ニ此処ヲ二ツ川ハ去也此間崎ヲ田畑ニ拵□レハ弥米糧多ク成ル間タ増ニ眷屬一家富ミケル間又此間崎ニ建家ヲ暫ク住

居シ其時ニ又踊沢ノ龍辰ノ口ト云物ヲ仕掛水ヲ壻台間崎へ呼ヒケリ其後チ川上ニ之水木越横穴ニ堀抜ヘク始ケレ共モ頓ニ岩切ル諸道具皆盡セケルヲ能幸成ルト悦ヒ思ラ此浪人ヲ扶持シテ岩切ノ道具ヲ繕ヒ他ノ力ヲモ不惜手勢六七人ヲ以テ五ヶ年間ニ此木越山ヲ大河之流通スル程之横穴ニ堀抜ケリ水ハ穴ヲ潜テ下面澤ニ流レ合ヘリ本ノ河無ニ流水一去程ニ弥ク力ヲ得テ山ヲ崩テ埋淵ヲ穿山集石築ニ土手一作提ヲ不日ニ新レ田之ノ作レ形然後此事ヲ久留里城ニ訴ヘ申上ケレハ神妙也トテ則檢地ヲ被ニ成下置一堀切リ新田之始ナレバ迎ラ三段餘ヲ除地ニ成シ被ニ下置一殘テ老町三段老畝六歩ヲ仰給ヘリ然共今除地何レノ田也ト分明ナラス其ノ故ニ三段餘ヲ除キ殘ヲ繩折給也何レノ田モ銘所ハ無シ唯一様ニ古川ト仰給ヘリ然ルニ經レテ年大風雨之嵐有リ笹入之山河水悉ク山岸根ヲ浸ケリニ彼穴ニ水餘リ古川新田ヲ水廻リ流ニ泥土共一皆推拂テ再亦タ如本ノ之成川ト又山屈入ル田間目余ル程ノ破損場成レ共日ヲ經テ遂ニ如本ノ又田ニナリヌ然レトモ大破損ナレハ田之一ケ所モ形チ無ケレバ本ノ田相違シテ田ニ大小アル事也然レトモ脇ヨリ入込之田無ケレハ唯一ト口ニ惣高老町三段老畝六歩御年貢上納也其後數度之大水ニ破損度々ナレ共遂ニ成就シテ田ノ銘所ハ古川ト申也自レ夫レ我甲澤小平ヶ台ニ家ヲ建テ古川新田畑ヲ三人ノ子息ニ分与也古川三軒トハ是故也又タ鍛冶浪人ニ千駄原ニ新田畑ヲ開發シ家ヲ

